



市民と議会の意見交換会を開催しました

日時: 令和5年11月19日(日) 10時~12時 場所: いきいき情報センター2階

全体説明会の後、常任委員会ごとに分科会を2回開催し、出席者からは活発なご意見をいただきました。

全体説明会では、意見交換会のあり方について、もっと工夫してほしいとのご意見や他市の開催方法とも比較研究してほしいなどのご要望がありました。

分科会で出た主な意見

● 総務文教常任委員会では

- ・ 議会としても行財政改革(職員数や再任用配置、人事評価など)の推進について提案をしてほしい。
- ・ いきいき情報センターの自習できる場所の拡大を要望(現役高校生からの声)。
- ・ 今の公民館は集会場に過ぎない。自治会は任意団体ではなく法的根拠を示してほしい。
- ・ 選挙は、デジタル社会に対応して投票率UPを図るべき。
- ・ ・・・など主に市政運営や自治会機能等のご意見がありました。

● 環境厚生常任委員会では

- ・ 自治会に加入していない対象者に敬老会事業費を届けていない所がある。
- ・ 子どもの居場所づくりの支援をしてもらいたい。
- ・ 不燃物ゴミの分別が難しいので市から指導してほしい。
- ・ ・・・など主に地域や生活福祉の観点からのご意見がありました。

● 建設経済常任委員会では

- ・ 多くの意見を聞く場の設定が必要。
- ・ 常任委員会ごとでなく3常任委員会委員が混ざった形で分科会を作るべき。
- ・ 野良猫対策はどうなっているのか。
- ・ 「住みたいまち」ではなく「住み続けたいまち」を作るべき。
- ・ ・・・など主に地域問題や意見交換会のあり方についてのご意見がありました。



参加いただきました市民の皆様の声を真摯に受け止め、議会として意見交換会代表者会を通じて協議研鑽していきます。

詳細な報告はホームページに掲載しています。

◇ 編集後記 ◇

クリスマスの日はこの編集後記を書いている。イエスが生まれたベツレヘムでは、クリスマスツリーに代えて瓦礫を積んでいるという。ガザの今に心を留めてのことだ。

ウクライナに続きガザで戦争が起きた。その惨状は市民から直接国際社会に伝えられてくる。そうした情報伝達技術の変化で、個人を国際法(国家を介さずに)直接に守ることが出来る時代になっているという講義を西南学院大学で聴いた。その通りだ。

他方、メディアによる選択の影響の大きさも痛感する。戦争が起きているのはガザやウクライナだけではない。人の苦しみに地域差はないのに。

議会だよりもメディアの一つだ。広報特別委員会も、伝える技術や技法は、他自治体に学び、研修に参加し、向上の工夫をしている。

でも、何を伝えようか、伝えられようか。なぞらえて言えば、ハマスかイスラエルかの選択を伝えるのではなからう。議会で起きている事実を伝え、判断を広く市民に社会に世界にゆだねることだろう。

瓦礫の中からでも現状を伝えられることの先に希望はある。私たちも戦火で苦しむ人と民主主義の根っこをそこで共有している。

議会広報特別委員会

委員	委員	委員	委員	委員	委員長
原	笠	田	久美子	剛毅	
木村	義彰	久美子			
今泉	義彰	久美子			
馬場	礼文	久美子			
タコス	礼文	久美子			